様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６３４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ０１９４０

研究課題名（和文）インタンジブルズと企業価値に関する研究

研究課題名（英文）Research on the relationship between Intangibles and Corporate Value

研究代表者
伊藤　和憲（Ito, Kazunori）

専修大学・商学部・教授

研究者番号：４０１７６３２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：統合報告書に関係する研究，中小企業のBSC導入のアクションリサーチ，病院へのBSC導入に関する研究を行った。統合報告に関する研究では，統合報告評議会(IIRC)のフレームワークと戦略的管理会計との関係を検討した。中小企業のBSC導入のアクションリサーチでは，三共製氷冷蔵へのBSC導入のアクションリサーチを行った。病院へのBSC導入に関する研究では，マネジメントの視点が遅れている療養型病院を対象にしてBSCを導入した。リサーチサイトのベトレヘムの園病院でのBSC導入目的,事業計画とBSCの関係,現状のBSCの課題を明らかにした。外にも実証研究を行ったが，論文の投稿には至らなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　インタンジブルズに係る研究として，統合報告の管理会計研究，中小企業のアクションリサーチ，病院マネジメントのアクションリサーチを行った。統合報告に対する管理会計研究は研究が遅れている部分であり，それを補った。中小企業の管理会計もこれからの研究テーマであり，インタンジブルズとの関係でBSCを取り上げて導入研究を行った。さらに，病院のマネジメントに係る研究課題については，BSCのアクションリサーチを行った。病院でのBSCを導入する上で，しばしばミスするケースが散見される。そこで，導入中の病院をリサーチサイトとして，導入するときの注意点を検討した。いずれも社会的ニーズの高い部分である。

研究成果の概要（英文）：I conducted research related to integrated reports, action research introduced by SMEs, and BSC introduction to hospitals. Research on integrated reports examined the relationship between the framework of the integrated report (IIRC) and the strategic management accounting. In the action research of BSC introduced by SMEs, the action research was performed to introduce BSC to Sankyo ice refrigeration. Research on the introduction of BSC to hospitals is a research on BSC for medical treatment hospitals whose management perspective is delayed. He revealed the purpose of introducing BSC, business planning and BSC, and the current BSC issues in Bethlehem Garden Hospital on research sites. I conducted a demonstration research outside, but did not reach the post in the dissertation.

研究分野：管理会計

キーワード：統合報告　BSC　インタンジブルズ　アクションリサーチ　中小企業　病院マネジメント

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は，これまで経営学や財務会計で研究されてきたインタンジブルズを管理会計として研究する点にある。この研究は ，3 つの課題に区分できる。第 1 の課題はケーススタディによるインタンジブルズのマネジメント，第 2 はインタンジブルズの仮説検証，第 3 の課題はインタンジブルズのレポーティングである。

２．研究の目的

企業価値創造に最も影響を及ぼすといわれるようになってきたインタンジブルズを管理会計として研究する。インタンジブ ルズは経営学研究で始まったが，会計では財務会計によるインタンジブルズのオンバランス化の課題として取り上げられた。 今日，管理会計研究により，インタンジブルズをいかにマネジメントすべきかに 研究の重点が移行している。インタンジブ ルズをマネジメントすることで価値創造できる。第 1 の課題は，インタンジブルズのマネジメントについて，いろいろなケーススタディを明らかにする必要がある。第 2 の課題は，実証研究と特定企業のアクションリサーチによりベストプラクティスを見つける必要がある。 第 3 の課題は，マネジメントの結果を統合報告書で情報開示するが，その対話によって戦略策定の情報に利用することである 。これらの研究で，インタンジブルズ・マネジメントのすべての研究にアプローチする。

３．研究の方法

この研究の方法は ，3 つである。第 1 の課題はケーススタディによるインタンジブルズのマネジメントを行う。第 2 はインタンジブルズについての仮説検証による実証分析である。第 3 は，インタンジブルズのレポーティングに関わる部分で理論研究を行う。

４．研究成果

本研究では，6 本の成果を達成した。第１の論文は，「IIRC フレームワークと戦略的管理会計の両立」というタイトルで，ディスクロージャー&IR 誌に掲載した。この論文では，IIRC フレームワークと Smith が提唱する戦略的管理会計との関係を検討した。意思決定が資本とサステナビリティ・インデックスに影響を及ぼすので,インデックスを最適にする戦略的意思決定をすべきだと提案した。この提案と IIRC フレームワークの関係を明らかにした。

第２の論文は,「情報の結合性を実現する価値創造プロセスの可視化」というタイトルで，日本知的資産経営学会誌に論文を掲載した。この論文では，エーザイをリサーチサイトとしたケーススタディに基づくアクションリサーチである。結果，財務情報と非財務情報の結合性は確保することができた。併せて，インタンジブルズの測定として提案されたレディネス評価を利用して，学習と成長の視点の測定を行い，活動と資本の結合性を提案した。これによって情報の結合性は完結となることを明らかにした。

第３の論文は，「統合報告書における結合性の検討」として，専修商学論集誌に論文を掲載した。この論文では，統合報告の指導原則である情報の結合性について検討した。結合性については,財務情報と非財務情報の結合性だけでなく,事業活動と資本の間の結合性についても整理した。その点から,オクトパスモデルをベースにした情報の結合を提唱する論文,サステナビリティ・レポートの観点からトリプルボトムラインと資本の結合性を提唱する論文を紹介する。最後に,BSC の戦略マップに基づく結合性の優位性について検討し,これを提唱した。

第４の論文は，” Case Studies of Value Creation on Integrated Reporting in Japan”というタイトルで，Global Journal of Management and Business Research 誌に論文を掲載した。この論文は，統合報告の主要な課題である統合思考，価値創造，情報の結合性について，日本企業の実態調査を行ったものである。統合思考は統合型マネジメント・システム，

価値創造は価値創造と価値毀損の抑制，情報の結合性は財務情報と非財務情報の結合性および活動と資本の結合性とそれぞれを定義して，優れた日本企業の統合報告書を検討した。その結果，統合思考，価値創造，情報の結合性の主要な課題は優れた統合報告書では満足できる開示をしていなかった。

第５の論文は，「三共製氷冷蔵株式会社への BSC 導入のケーススタディ」というタイトルで，高橋淑郎編著『非営利組織と営利組織のマネジメント』に掲載した。中小企業への BSC 導入は欧米だけでなく，日本でもその事例は多くはない。その原因はいろいろあるが，最も重要なことは導入コスト以上にその便益が上回らないためである。しかし，BSC に対する誤解も多く，適切に導入を支援できれば中小企業でも BSC を導入可能ではないかと考えて，アクションリサーチを行った。三共製氷冷蔵への BSC 導入によって，①戦略の質の向上，②戦略の浸透，③戦略実行力の向上，④トップの戦略策定能力の向上，⑤非財務業績の把握，⑥財務業績の向上，⑦他部門とのコミュニケーションの向上などが得られた。成果が得られたのは，①トップのコミットメント，②業務レベルでのデータ管理の実施，③現場への戦略新党を実施，という 3 つがうまくいったためである。

最後に，第６の論文は，”Action Research on Cascading of BSC”というタイトルで，Japanese Management and International Studies 誌に掲載した。この論文では，ベトレヘムの園病院への BSC 導入を扱った論文である。同病院は BSC を導入したばかりの病院で，戦略実行として戦略的実施項目の実施に悩んでいた。具体的には電子カルテの導入プロジェクトを推進するとしていたが，関係者がバラバラに実施していて，導入がうまく管理されていなかった。そこで，ガントチャートを作成するよう指示し，スケジューリング管理させた。この結果導入が効果的に進められていることを明らかにしたアクションリサーチである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 梅田宙，西原利昭，梅田充，伊藤和憲	４．巻 80(1)
２．論文標題 日本企業の統合報告の現状－「統合報告」に関するアンケート調査結果をもとに－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 産業経理	６．最初と最後の頁 179-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kazunori Ito	４．巻 20(8)
２．論文標題 Case Studies of Value Creation on Integrated Reporting in Japan	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Global Journal of Management and Business Research	６．最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kazunori Ito, Shu Umeda and Hiroyuki Sekiya	４．巻 8(2)
２．論文標題 Impact of Intangibles on Corporate Value	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Human Resource and Sustainability Studies	６．最初と最後の頁 131-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊藤和憲	４．巻 111
２．論文標題 価値創造プロセスの可視化の要件	５．発行年 2020年
３．雑誌名 専修大学商学論集	６．最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤和憲	4．巻 6
2．論文標題 情報の結合性を実現する価値創造プロセスの可視化	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本知的資産経営学会誌	6．最初と最後の頁 8-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤和憲	4．巻 112
2．論文標題 病院BSCの部門へのカスケードに関わるアクションリサーチ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 専修大学商学論集	6．最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤和憲	4．巻 9
2．論文標題 IIRCフレームワークと戦略的管理会計の両立	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ディスクロージャー&IR	6．最初と最後の頁 174-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤和憲	4．巻 196/2
2．論文標題 統合報告における価値創造の文献サーベイ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 會計	6．最初と最後の頁 202-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Mohsen Souissi & Kazunori Ito	4．巻 19(2)
2．論文標題 Implementing and Cascading The Balanced Scorecard: The Case of Danish Hospital	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Accounting, Ethics & Public Policy	6．最初と最後の頁 201-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 伊藤和憲・国田清志	4．巻 107号
2．論文標題 BSCによるプロジェクト・マネジメントの事例研究 ： ラオスへの複式簿記普及プロジェクト	5．発行年 2018年
3．雑誌名 専修商学論集	6．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤和憲	4．巻 14(2)
2．論文標題 療養型病院のBSC導入とその課題－ベトレヘムの園病院の事例研究－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 医療バランスト・スコアカード研究	6．最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kazunori Ito & Masaki Iijima	4．巻 6(3)
2．論文標題 The Paradigm Shift from Financial Reporting to Integrated Reporting	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Human Resource Management	6．最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11648/j.jhrm.20180603.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 梅田宙，関谷浩行，伊藤和憲	4．巻 108号
2．論文標題 エマージェンと組織のインタンジプルズ・マネジメント－A社のケーススタディ－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本知的資産経営学会誌	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤和憲	4．巻 108号
2．論文標題 統合報告書における結合性の検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 専修商学論集	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 伊藤和憲，関谷浩行，梅田宙
2．発表標題 医療機関におけるマネジメント・システムの導入とその成果に関する研究
3．学会等名 日本管理会計研究学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 関谷浩行，梅田宙，伊藤和憲
2．発表標題 病院マネジメントの実態調査とインタンジブルズ
3．学会等名 日本医療バランスト・スコアカード研究学会
4．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

1．著者名 高橋淑郎，伊藤和憲他	4．発行年 2020年
2．出版社 中央経済社	5．総ページ数 202
3．書名 営利組織と非営利組織のマネジメント	

1．著者名 伊藤和憲、小西範幸	4．発行年 2018年
2．出版社 同文舘出版（株）	5．総ページ数 240
3．書名 戦略的管理会計と統合報告	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Implementing and Cascading the Balanced Scorecard
https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3202799

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関